巡礼その五十　沖縄２

2020 年２月 21 日

４時起床、すぐに車で羽田空港へ。駐車場へはスムーズに行けた。P１に駐車して６：15 分の那覇行きに乗る。お店はどこもまだ開店していないので朝食は抜き。最悪なことに予約した席は二人掛けのＡとＣなのに３人掛けのシートになっており、間にＢの人が座る。おそらく機種が変更になったのであろう。朝食抜きなのでコンソメスープを飲む。今回はとても安い ABC レンタカーにする。空港からギュウギュウ詰のバスでお店へ。車はマーチだった。快晴の中出発。気温は２０度前後でとても気持ちが良い。今回の目的は南部の遺構（墓など）や御嶽、メインは久高島でアマミキヨ伝説を訪ねる。まずは那覇市と豊見城市の間を流れる国場川にかかる橋「真玉橋の遺構」へ行く。1837 年に改築された美しい６連の石橋だ。しかし沖縄戦で破壊され今は一部が残っている。次は糸満市にある「潮平ガー」へ行く。ガーとは井戸のことで飲料水として、野菜の洗い場、家畜の水飲み場として使われた。またこの場所で出生報告や供え物を広げて新年を祝ったという。沖縄にはこのような井戸が壊されずいたるところに残っていて、今も使われているところもある。とても東南アジアっぽい。「幸地腹・赤比儀腹両門中墓」は沖縄最大の墓地で父系の血縁集団の血縁共同墓である。5500 人の先祖が祀られている。この日も先祖のお参りに来ている人たちがいた。次は照屋にあるシーサーであるが保存状態がとても悪い。正面の顔を見てやっとわかる程度である。お昼になったので近くにある「よしもと食堂」で三枚肉ソーキそばと水餃子を食べる。とてもさっぱりしていて美味しい。次は高嶺小学校の敷地内にある「南山グスク（南山王の居城跡）」へ行く。14～15 世紀に栄えたグスクで城跡内のガジュマルの群生が見事である。小学生が授業を受けていた。沖縄ワールドへ移築した文化財の民家を見に行く。途中、前回訪れた「富盛のシーサー」近くのバス停のベンチに「富盛のシーサー」のレプリカが鎮座していた。ベンチに座るとシーサーの隣に座るようになる心憎い演出だ。沖縄ワールドには民家を見に行く予定であったが、時間もあったので鍾乳洞の「玉泉洞」へ入ってしまった。鍾乳洞自体は素晴らしいものであるが、スケールが大きく長くとても疲れる。さらに湿度が

高く蒸し暑い。ヘロヘロになり外に出たらフルーツ園みたいなところがあり、ここでタンカンの生ジュースを飲む。めちゃくちゃ美味しく生き返る。その後目的の琉球王国村へ行く。移築した民家がお店になっていてとても楽しい。昔の（昭和の初め）沖縄に来たみたいでワクワクする。また植えられている樹木（元からあった？）も素晴らしい。古民家の屋根のシーサーがチャーミングだ。南城市の陸上競技場へ行く。競技場の裏に「百十踏揚の墓（ももとふみあがり）の墓」があるからだ。百十踏揚は琉球王朝の女王で権力争いに翻弄され、最も数奇な運命を辿った悲運な女性である。墓は素朴で見逃しそうである。次は奥武島にある「竜神宮」を見に行く。大きな龍が天から降りてきて休む「龍座」と呼ばれている場所で拝所である。この島のもう一つの目的は絶品の天ぷらを食べることである。「中本鮮魚てんぷら店」のもずく天を食べる。とてもさっぱりしていて美味しい。仲村渠集落のガー、「仲村渠樋川」へ行く。生活用水として使われてきた湧き水は現在農業用水として利用されている。ここの雰囲気はまさにインドネシアの沐浴場である。なんと五右衛門風呂が設置されている。ガーは村人の社交場である。近くにある「垣花樋川」へ行く。ここは車ではいけないので車を置いてとても急な石畳の坂を下りて行く。途中に自然石のベンチがある。とても急なので下から運んできた水を置いてここで休むためである。さらに降りると桃源郷が現れる。そこは正面に海を眺める小さな澄んだ池がありそこに数カ所から湧き水が注がれる。一番上の湧き水は女性用の洗い場と沐浴場で龍の樋嘴から湧き水が流れ、少し下の沐浴場は男性用で大きい。まるでバリ島や東ジャワの沐浴場である。これらの湧き水が下の池に注がれ、池から流れ出した水は田畑を潤す。沖縄でもベストの美しい場所で、ここの水は全国名水百選に選ばれている。帰りの坂が怖い。本日の最後は「ヤハラヅカサ」で海の彼方にある神々の住む理想郷「ニライカナイ」から久高島に降り立った琉球の創世神アマミキヨが、続いて沖縄本島に上陸したときに最初に足に降ろした場所とされている。ここには琉球石灰岩で作られた石碑があるが満潮時には見えなくなる。シヴァ神のリンガ（男根）みたいである。今回の旅行はアマミキヨの足跡を追う旅である。今夜泊まるホテルはこの近くにある「海座」というリゾートホテルで、とてもモダンでコンクリートの打放しと木で作られ、センスがとても良い。基本的にＢ&Ｂか素泊まりである。オール電化のキッチン、電子レンジ、冷蔵庫、調理用具、食器（とてもセンスが良い）などを揃えてあるので自炊もできる。ツインのベッドは広く、ベランダからは海が見える。お風呂も気持ちが良い。夕食は以前から行きたかった「チャーリーズレストラン」へ行く。地元で無敵の食堂でステーキからスパゲッティ、中華、寿司、和食、沖縄料理なんでもある。それと名物がアップルパイ。観光客は全くいない。私はチャーリーズステーキ、妻は海鮮スパゲッテ

ィをそしてあまりに美味しそうだったのでエビフライ（６尾）を注文。全ての料理にスープ・サラダ・パンが付く。従って全て３つ付いてくる。どれも美味しかったが量が多すぎたので。エビフライをパンに挟んで持ち帰り、朝食にする。そのほかは完食。ホテルに戻りもう一度風呂に入り 10 時に消灯。
2月 22 日
　８時のフェリーで久高島に行くので５時に起きる。冷蔵庫には予約した朝食が入っている。サラダ、ハムとチーズのホットサンド、ヨーグルト、ジュース、デザート、フルーツである。ホットサンドは部屋についているホットサンドメーカーで作る。そして昨日のエビフライサンドである。満足して６時 45 分チェックアウト、安座間港へ向かう。途中素晴らしい日の出を見てニライカナイ橋を通って行く。安座間港の駐車場はなんと満車である。フェリーに乗ると謎が解けた。９０％の人が地元の釣り人であった。フリーで久高島の復習をしていたら約 20 分で徳仁港に着いた。港には予約しておいたガイドの西銘さんがワンボックスカーで待っていた。自己紹介して出発。まず島の先端にあるアマミキヨが降り立ったと言う「カベール岬」からスタート。美しいの一言。「聖地ハビャーン」で拝む。途中にある拝所を見て久高島植物の話を聞く。ここからロマンスロードと言う遊歩道を歩く。南国独特の植物の間を抜けると東屋があり、ここからの眺めは素晴らしい。エメラルドグリーンからブルーのグラデーションがすごい。島一番の聖地「クボウ御嶽」へ行く。ここは誰も入れないので入り口で西銘さんの説明を聞く。一説によるとアマミキヨはアマミキヨ族のことで南方からやってきた民族。そこには先住民が住んでいてその先住民の住居などが御嶽だと言われている。そしてアマミキヨ族は本島に渡っていった。次は「イシキ浜」で五穀が入った壷が流れてきて、それから久高島、沖縄本島へと穀物が広まったとされる伝説の場所である。ここで西銘さんが石を３個並べて女性が男の健康・安全を祈る儀式があることを教えてくれた。ここに流れてきた五穀を植えた所が「ハタス」でここから島中に広がっていった。集落の中に入る。集落は古い石垣の家とコンクリートの塀の家がある。私が一番興味のあった「イザイホー」が行われた場所へ行く。「イザイホー」とは 12 年に一度行われる、久高島で生まれ育った 30 歳以上の既婚女性が神女（神職者）となるための就任儀礼であるが 1978 年以降、ナンチュ（新たな神女）となる女性の不在と、儀式の祝詞や段取りをもっともよく知る久高ノロウメーギ（神職名。久高ノロの補佐役）の逝去のために行われていない。おそらくこれからもう行うことはできないであろう。私は 1978 年に行われた映像をユーチューブで繰り返し見た。その現場を訪れる。重要な「外間殿」、「久高殿」を見ながら、映像を確認する。なぜか涙がこぼれ落ちそうになり胸が締め付けられる。最後のイザイホーの時、西銘さんは整備係だったそうだ。

この神事は女性が取り仕切り、男はほとんど何もしない。そのほか「大里家」や「ウプンシミ」、「ハンチャタイ」など集落の説明を聞き、11 時 30 分の高速船で徳仁港へ戻る。やはりこういう聖地にはガイドが絶対必要である。西銘さんありがとうございます。本島に戻りまず自衛隊基地の中にある「佐敷ようどれ」を見学する。「ようどれ」とはタ凪の意味で墓を意味する。入り口で住所、氏名、車のナンバー、色、車種などを書き込み、すぐ近くにあるようどれを見学する。案内の自衛官が一人つき見張っている。佐敷按司であった尚巴志の父・尚思紹とその家族が眠るとされる。昨日行った「チャーリーズレストラン」が近くにあるのでお昼を食べに行く。ほぼ満席である。大きいテーブルに相席させてもらい私は魚フライ定食を妻はあんかけ焼きそば（チャーメン）を食べる。お昼は家族連れが多い。おじいさんやおばあさんもモリモリ食べている。みんな嬉しそうだ。だから市民食堂は最高である。その後「松尾の御嶽」、「カニマン御嶽」を見て末吉公園にある「末吉宮」へ行く。「末吉宮」はわかりにくいのでよく下調べをしていった。迷わず行けたが問題はそのあと起こった。見学して戻ればよかったのだがこの先に「宜野湾御殿の墓」がある。とても魅力的なところなのでそこも見学しようと思い、行ってみた。地図では「末吉宮」の隣にあるのだがとても複雑な道でどんどん遠ざかっていく。10 分も行けば着くところが 20 分以上歩いてもつかない。谷を登ったり降りたりしてもう元にも戻れない。なんとか公園を出たら 30 分以上歩いていた。そして車の場所の全く反対側に来てしまった。携帯で場所を確認するが大変なところに来てしまった。もちろんタクシーも通らないし歩いて戻ると１時間近くかかりそうでもう疲れてしまった。そこで近くで車を洗っている人にどうやって戻ったら良いか聞いたところ、それは大変だ、歩くと遠いので僕が送って行きますと言ってくれた。沖縄の人は親切である。ますます沖縄が好きになった。その人に送ってもらっても 15 分ぐらいかかった。妻ともども丁重にお礼をいう。首里の街の中に、こんなに迷子になる程深く広い森が存在していることがすごい。改めて沖縄の凄さを感じる。高速に乗り以前いった「安慶名グスク」へ行き、闘牛場からグスクを写す。最後に沖縄市知花の「奉安殿」へいく。「奉安殿」とは戦前の日本において、天皇と皇后の写真（御真影）と教育勅語を納めていた建物で日本全国にあったが終戦後にほとんど壊されてしまった。今夜はうるま市にある「ココガーデンリゾート」に泊まる。ここは前回も宿泊したところでタ食も前回食べに行った「栄料理店」を予約してある。人気店で予約しないと入れない。今回はコース料理でイチボのステーキである。大好きなテビチの唐揚げがコースにないのでこれと、とろとろソーキ、タコの刺身を追加した。大好きなパッションフルーツの生ジュースとタンカンの生ジュ

ースを飲む。とても満足してホテルに戻り、レストランでサービスのコーヒーを飲んで寝る。
2月23日
　７時に朝食、前回と同じオレンジの圧搾機があり、生のオレンジを絞って２杯飲む。昨日食べ過ぎたのでサラダとおかゆにする。ここの朝食は美味しい。８時に出発して高速に乗り、中城にある「護佐丸の墓」へ行く。次に前回見逃した「浦添ようどれ」と「ようどれ館」に行く。「ようどれ館」はようどれの内部を再現してありとても興味深い。その後「浦添ようどれ」へ行き写真を撮る。浦添市の街中にある「浦添御殿の墓」へ行き、琉球組踊の祖と言われる「玉城朝薫の墓」へ行く。この墓は山の中腹にあり下はトンネルである。読谷山王子朝憲とその直系の墓である「読谷山御殿の墓」は鍵がかかっており中に入れないので外側から写真を撮る。さらに「伊江御殿墓」と「伊是名殿内の墓」を見て県立博物館へ行く。グスクを基にして建築されたモダンな建物で素晴らしい。入口を入ってすぐの野外展示場には興味深いものが沢山ある。内部は写真撮影ができ、沖縄の動物や港川原人が面白い。そのほか円覚寺跡の遺物が興味深い。お昼になったのでこの建物の中にあるイタリアンレストランでスパゲティのランチを食べる。地産地消で素材を生かしている。私はアンチョビトマト、妻は島ラッキョウとシラスのスパゲティにする。スープ、サラダ、パン、ドリンクバーはおかわり自由である。なかなか美味しい。前回いけなかった「御茶屋御殿シーサー」を見て今夜のホテル「トリップショットヴィラス・ハマヒガ」がある浜比嘉島へ行く。チェックインまで時間があるので最先端の伊計島まで海中道路を通ってドライブ。特に見るところはないので「ぬちまーす観光製塩ファクトリー」へ行き、「果報(かふう)バンタ」で絶景を見る。浜比嘉島へ戻り、チェックイン前にアマミチューへ行き写真を撮る。前回は満潮で裏側に回れなかった。ここからホテルはすぐで、ここもモダンなコンクリート打放しでとてもカジュアルである。素泊まりで夕食はうるま市にあるフレンチレストラン「BBR」を予約した。小さい町で何もない住宅地の中にレストランがポツンとある。それも路地を入ったところにある。この場所で経営が成り立つのか不思議であるが中はとても綺麗で料理も本格的であった。アミューズはコンビーフのようなもの、地野菜とチキンのマスタード・ドレッシング、パルメザンチーズのリゾット、地魚三種のグリル、メインは豚三枚肉の白ワインとクリーム煮こみ、デザートはケーキ４種類とソルベブランマンジェとコーヒーでとても美味しかった。帰りにローソンで明日の朝食のスパムおにぎりを買う。10時消灯。
2月24日

浜比嘉島からの日の出が見たいので６時 15 分（日の出は６時 45 分）に車で場所を探しに行く。以前行った良さそうなビーチに着き、日の出を待っているが周囲は明るくなるも日の出は見られない。40 分ぐらいになっても見られないので諦めてホテルに戻る。途中アマミチューによってボーとしていたら真っ赤な太陽が昇ってきた。時間は７時であった。写真を撮り、ホテルに戻り、スパムおにぎりを食べ出発。「シヌグ堂」へ行き今回は階段を登り上まで行く。流石にここのガジュマルはすごい。集落の中にある「地頭代火の神」、「ヌン殿内」を見学して那覇へ行く。カーナビが高速を選ばなかったので一般道で那覇まで行く。街中を通るのでとても新鮮であった。那覇ではシーサー巡りをする。国際通りの牧志駅の前にある巨大なシーサーを見て、壺屋の入り口にあるシーサーも写す。二つともよく似ている。「仲島の大石」は街中のバスターミナルにある巨大な岩で岩の上に木が生えている聖地である。お昼は沖縄宮廷料理の「美栄」を予約してあるがまだ時間があるので、やちむん通りへ行き散策する。ここには窯が２箇所ある。「美栄」はオフィスビルの中にそこだけタイムスリップしたような古民家があり、とても不思議な雰囲気で素晴らしい。個室に通されたが座敷ではなく畳にテーブルと椅子なのでホッとする。置いてあるもののセンスが素晴らしい。料理はほとんどが塗りの器に盛られている。宮廷料理を満喫する。沖縄の料理は家庭料理や田舎料理が大好きであるが、宮廷料理を食べて沖縄料理というものが分かった。これで沖縄旅行は終わりである。レンタカーを返却して空港へ送迎してもらう。お土産のパッションフルーツのジャムを探すがどこにも売っていない。諦めて新製品のパッションフルーツバターを買う。とても高い。今回も大満足で沖縄に永住したくなる。特に琉球開闢神話の地、南城市に。